



4月27日、関西国際空港からフィンランド航空の直行便でヘルシンキへ。ヘルシンキから国内線に乗り継ぎ、ユヴァスキュラへ向かう。ここで、Hoo-JA!前号のインタビューでご紹介の版画家、石山直司さん(新居浜市出身)とお会いする。石山さんは現地の同僚に「日本にも、フィンランドと同じ名前の『NIIHAMA』という地名があるんだ。それをわざわざ日本から取材に来たクレイジーな記者だ。僕のインタビューはオプションなのさ」的なことを、英語で説明。「オプション」は聞き取れたので、謙遜して言われたことは解りましたが、「クレイジー」と言ったか、言わないかは…。ただ、そう言われても仕方がない程の今回の無謀な旅…。



4月30日のタンペレ市街地。
春の祭典ヴァッパ(メーデー)の前日、広場には露店が多数。



5月1日のタンペレ市街地での行進。
多くの方が高校卒業の帽子を被っている。

※ちなみに滞在中の最低気温は2度でした…

何年も前、googleマップの中で何気に検索した「NIIHAMA」。もちろんご当地「愛媛県新居浜市」がトップヒットとなるのですが、その後に出てきたのが「**Niihama, Finland**」。まさかまさかの「フィンランドにあるニイハマ」。そんな長年のモヤモヤを解決すべく、今回行ってきました。北欧は森と湖の国、フィンランドの「ニイハマ」へ、無謀にも…。



翌日、NIIHAMAへタクシー移動。編集部アツラの拙い英語で現地へ連れて行ってもらい、取材中も待ってもらうように交渉。ほとんどの方がフィンランド語のほか、英語も話せます。タンペレの中心部からタクシーで15分ほど走った幹線道路12号で、ついに見つけた標識!!(写真上)



この先にNIIHAMAがある

ただ、標識から脇道に入ると、未舗装の林道。奥へ進むと小さな集落に到着。大きな湖(ナシ湖)が広がり、湖畔に家が多数並ぶ。しかし、人の気配はほとんど無い。ここ「NIIHAMA」はサマーハウスの集落。夏の休暇をのんびり過ごすためのエリア。湖畔にはボートが並び、芝生広場、テニスコートなど、バケーションを快適に過ごす設備が整っている。



いわゆる別荘地。
小さな家が区画に並んでいる。
ほぼ全ての家にエントツが。

そんな快適な湖畔から少し内陸部にある小さな湖が「Pikku-Niihama」。Pikkuは「小さい」の意味なので、小さなニイハマ(湖)。このニイハマ湖のほとりにある「NIIHAMAN MAJA」は、湖周辺や森林をトレッキングする方のための休憩所。トレーニング設備も野外に並び、ウォーキングやランニングする人もちらほら。



NIIHAMAN MAJA

フィンランドのNIIHAMAはハイキングや釣りなど、休暇や週末にアウトドアを存分に楽しむ場所。今回の訪問はシーズンがずれていたため、ひっそりとした風景だったけど、短い夏を楽しむフィンランドの人々の姿が眼に浮かぶ、そんな自然豊かな場所。帰路にタクシーの運転手さんに聞いたのは「この辺は熊も出るよ」…って!! そんな森の中を訳も分からず歩いた思い出が、今となっては懐かしい。「タンペレと新居浜が姉妹都市にならないか?」などと市政レベルで勝手に妄想を膨らませつつ、時期外れのNIIHAMAを堪能しました。



© NPO法人新居浜まぢゅり隊

NIIHAMAに新居浜まぢゅり。

「NIIHAMA」の湖畔で「新居浜まぢゅり」の記念写真を撮り終えて…、で、次の目的地へ。

タンペレの市街地からNIIHAMAとは反対の方向、タンペレ空港方面に車で40分。実はgoogleマップで見つけていた、まさかまさかの「**SAIJOENTIE**」。この「SAIJOENTIE」を見つけた時に、「新居浜と西条なら、Hoo-JA!は絶対行かなければ!!」と、これが今回の旅の決め手となった。

ただ残念ながら、フィンランド語の発音で「JO」は「ヨ」。この「SAIJOENTIE」(サイヨエンティエ)は、「サイ(地域)の川への道」の意味となる。SAIJOの川って、水の都・西条を象徴する「加茂川」のような川があると思いきや、SAIJO-ENTIEの川は下の写真。



ちょっと川の規模が残念ながらも、このSAIJOENTIEは牧場や草原が広がるのどかな場所。

ただ、草原にボツンと置かれる、こんな物騒なものも。



個人所有だそうぞ

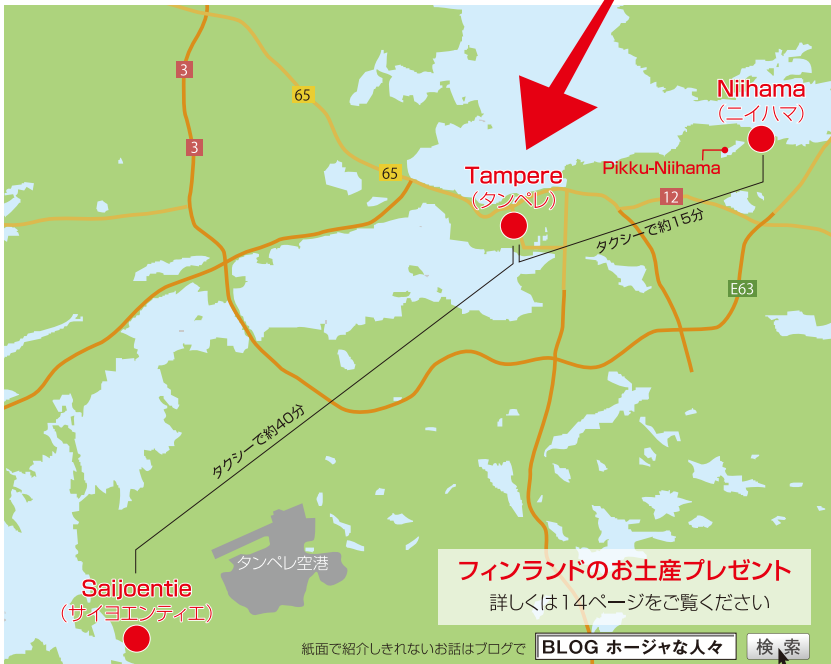


フィンランド代表的なキャラクター像と、
西条と新居浜とHoo-JA!の「ゆるキャラ」を一堂に。



© チャップン隊

SAIJOENTIEにチャップン隊やん。



フィンランドのお土産プレゼント
詳しくは14ページをご覧ください

BLOG ホーjana人々 検索